

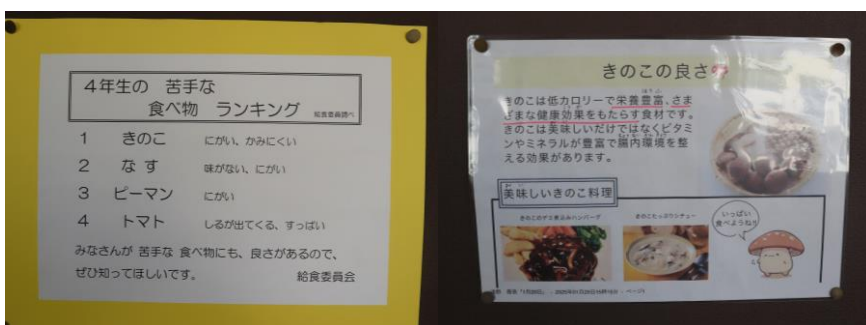


給食委員会による苦手な食べ物アンケートの結果

給食委員会が、全校児童に苦手な食べ物アンケートを行い、その集計結果を「苦手な食べ物ランキング」として、学年ごとに掲示し、紹介してくれました。各学年、以下のような結果になりました。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第1位	なす	ピーマン	ピーマン	きのこ	トマト	きのこ
第2位	トマト	トマト	なす	なす	きのこ	なす
第3位	ピーマン	なす	トマト	ピーマン	ピーマン	納豆
第4位	さかな	***	きのこ	トマト	***	ゴーヤ

この結果を見て、ピーマンやトマトが多いのは想像ができたのですが、なすがどの学年でも多いことは意外に感じました。それぞれの食べ物が苦手な理由として、味やにおい、食感などがあるようです。給食委員会では、ランキングの表示と一緒に、ランキングに出てきた食べ物の体への良い効果も調べて、表示してくれました。苦手な食べ物を克服するのはなかなか難しいかとは思いますが、成長するに従って、味や匂いの好みが変わることもあります。栄養のバランスのことを考えると、少しずつ食べられるようになるとよいと思います。



この結果を見て、ピーマンやトマトが多いのは想像ができたのですが、なすがどの学年でも多いことは意外に感じました。それぞれの食べ物が苦手な理由として、味やにおい、食感などがあるようです。給食委員会では、ランキングの表示と一緒に、ランキングに出てきた食べ物の体への良い効果も調べて、表示してくれました。苦手な食べ物を克服するのはなかなか難しいかとは思いますが、成長するに従って、味や匂いの好みが変わることもあります。栄養のバランスのことを考えると、少しずつ食べられるようになるとよいと思います。

結果よりも大切なもの

教育新聞のコラムに書いてあった内容を紹介します。

100点を取ることで自分をほめるのはやめておくべきです。満点を褒めることは、満点以外は価値がないというメッセージでもあります。実は何も言わなくても構わないのです。それは、他者が価値づけをせずとも、本人が感じ取っているはずだからです。満点自体を褒め続けると、やがて他人を見下すようになる可能性があります。さらには、ミスを恐れるようにもなります。本質的な価値は、努力そのものです。「頑張った結果だね」と努力をほめ、満点自体をほめるのはやめた方がよいでしょう。中でも「〇点を取れたら何々を買ってあげる」系のご褒美は即座にやめてください。賞品と点数は無関係です。

といった内容でした。このコラムを読んで、とても共感できました。

結果よりも大切なのは、プロセスです。どれだけ、頑張ったか、努力したかに注意を向けたいです。結果が良いに越したことはありませんが、一生懸命努力しても結果が伴わないことは、よくあることです。逆に、大した努力もしなかったのに、思いがけず良い結果が出ることもあります。結果に注目してしまうと、子どもたちの今後につながる大切な部分を見逃してしまいます。子どもたちが、取り組んでいる過程をよく見るようにして、必要な場面で、かける言葉を考えて声をかけたいです。もし**結果が良くなく、その原因が努力の足りなさからきている**のであれば、「結果は残念だったね。何が足りなかったのかな」と自覚を促していく。**努力をしたのに、結果が出なかった**としたら、「結果は残念だったけど、すごく頑張っていたね。今の努力を続けていれば、必ず結果は出るよ」と取り組みを価値づけし、励ましてあげる。**努力をして、結果もよかった**なら「頑張ったから、良い結果が出たね。頑張るって大事だね」と頑張りをまず認めて、結果も一緒に喜ぶ。こんな関わり方が、子どもの意欲を引き出すためには、重要かと思いました。勝負事になれば必ず勝ち負けはあるし、点数や順位も、努力に見合った結果が出るとは限りません。結果という表面的な部分だけで評価するのではなく、そこに至るまでのプロセスをしっかりと見定めて評価してあげたいものです。